

新宿ターミナル協議会（第10回）

議事概要

1. 日時・場所

令和2年3月2日（月）11時00分～12時00分

都庁第二本庁舎 31階 特別会議室 21

2. 出席者

別紙 参加者名簿のとおり

3. 議題

(1) 取組状況等について

① 案内サインについて

② エレベーター及び視覚障害者誘導用ブロックについて

(2) エレベーター新設に伴う案内サイン計画について

(3) 案内サイン整備の効果検証について

(4) サービスの向上について

(5) 今後のスケジュールについて

4. 配布資料

- ・ 議事次第
- ・ 席次
- ・ 名簿
- ・ 【資料1】案内サインの整備スケジュール
- ・ 【資料2】バリアフリー施設の整備スケジュール
- ・ 【資料3】エレベーター新設に伴う案内サイン計画（案）
- ・ 【資料4】新宿駅における案内サイン整備に関する効果検証
- ・ 【資料5】整備計画（案）（令和2年3月一部追加）
- ・ 【資料6】屋内測位技術を活用した案内誘導サービス実証デモの結果について
- ・ 【資料7】今後のスケジュール
- ・ （参考資料）整備計画（平成29年8月）
- ・ （参考資料）整備計画（平成31年3月）（一部追加）

5. 挨拶

[座長 岸井隆幸教授]

きょうはちょっと大変な時期にご参集いただきまして、ありがとうございます。できるだけ速やかに議事を進行してまいりたいと思いますので、協力をお願いいたします。

きょうは5点ほど、議事が用意されていますが、時間短縮のために、まず一括で説明いただいて、一括で討議とさせていただきたいと思います。では、事務局から説明をよろしく願います。

6. 資料説明及び意見交換

岸井隆幸座長：それでは、お手元の議事次第に従いまして、進めてまいりたいと思います。最初に取り組み状況等についてです。2点ございますが、一緒に報告していただいて、もし質問があれば、お受けします。こちらは報告に近いものです。ご説明をよろしく願います。

交通プロジェクト担当（事務局）：それでは、議事（1）案内サインとエレベーターおよび視覚障害者誘導用ブロックの整備状況について、ご説明いたします。資料は資料1と資料1の別紙および資料の2です。

まず、案内サインの整備状況について、ご報告いたします。資料1と資料1の別紙を併せてご覧ください。東京2020大会に向けて、各事業者さま、ご協力の下、新宿ターミナルにおいて、案内サインの整備が着々と進んでおります。残すところ、東京国道管轄の部分とJR東日本の東西自由通路に関係する部分が残っております。これらについては、オリンピックまでに整備を進めるところで、各事業者さまに進めていただいています。

続きまして、資料の2、バリアフリー施設のスケジュールについて、ご報告いたします。資料の2の下段をご覧ください。まず、始終電対応化に向けた検討ということで、メトロプロムナードについて、東京メトロのほうでご検討を進めていただきまして、2020年4月に開始予定です。それから、京王新線の改札の外に、新たに整備を進めておりますエレベーターにつきましても、京王電鉄で整備を進めていただいております。東京2020大会の前までには整備が終わる予定です。併せて、視覚障害者誘導用ブロックにつきましては、京王新線から小田急電鉄、JR東日本、3社をまたがる経路において、点字ブロックの整備を進めていただいております。本年度末には完成の予定です。以上でございます。

一括で資料の説明をさせていただきます。続いて議事次第の2、エレベーター新設に伴う案内サイン計画についてです。こちらは資料3をご覧ください。

1枚おめくりいただきまして、1ページ目が整備の目的です。新宿駅のバリアフリーの推進にあたり、京王新線新宿駅エレベーターが新設されることから、エレベーターサインの新規設置および既存サインにおける表示内容の更新が必要となります。

このため、円滑な案内誘導ができるよう、サイン計画を見直し、整備を行うものとしております。新設のエレベーターができる位置は、下の図の1の所の京王新線の改札を出た所です。少し階段がある所ですが、そちらのほうに新設し、整備をしているところでございます。

2 ページ目をご覧ください。今回のエレベーターの新設に伴い、新規に設置されるエレベーターサインおよび更新が必要となる指示サインについてです。こちらは対象工区として、エレベーターサインについては京王工区、指示サインについては京王③工区です。対象工区につきましては、図の2に示しているとおりでございます。

続きまして、整備内容というところからです。今回のエレベーター設置に伴って、新たに設置されることになりましたエレベーターサインと既存の指示サインの更新について、レイアウト案を3ページ以降にご紹介いたします。

4 ページ目をご覧ください。こちらは、新設されるエレベーターです。アルファベットでFのエレベーターとなります。エレベーターに設置します同定サイン、停止階案内を4ページ目に掲載させていただいております。今回、設置されますFエレベーターは、地下中1階ですので、そこから先、地上へ出るためには商業施設内のエレベーターを活用していただく手順になります。今回、ルミネのご理解とご協力の下、停止階案内図にありますとおり、商業施設内エレベーターを活用して地上に出るという案内になっております。

エレベーターの位置案内図につきましては5ページ目に拡大したものがございまして、ご覧になっていただければと思います。

続いて、6ページ目に移ります。6ページ目は、エレベーターで上がった側から見たサインです。こちらにつきましては、同定サインのエレベーターがご覧のように設置される予定でございまして。

続いて、7ページ目でございます。更新されるつり下げサインについて、掲載しております。更新前と更新後ということで、比較させていただいております。赤字で更新後となっているものが、今回、更新する内容のデザインです。先ほどのエレベーターの位置案内や停止階案内でもご説明しましたように、商業施設内エレベーターを使って地上に出るということでつり下げサインの左側にそのような案内を付け加えさせていただいております。

最後に8ページ目、基本的な整備方針です。基本的な整備方針は以下のとおりとします。(1) 更新の時期は、新設される京王新線新宿駅エレベーターの供用開始時期と合わせます。(2) 整備の役割分担として、整備対象となる案内サインの整備は、新宿ターミナル協議会で取りまとめたサイン計画に基づき各管理者が行うということになっております。

議事次第の(2)については、以上でございます。

交通プロジェクト担当(事務局)：続きまして、(3)案内サイン整備の効果検証についてということで、資料4をご覧ください。この取組の目的といたしましては、2017年から着手しました案内サイン統一に向けた取組を協議会各社さまのご理解とご協力によりまして、ほぼ完了しております。この先駆的な本取組につきまして、駅利用者へアンケート調査を行いまして、利用者の使いやすさについて検証を行ってまいります。今後、この取組を先行しております新宿駅をはじめ渋谷、池袋、東京、品川、浜松町、日暮里、立川、八王子がございますが、これらの駅以外にも広げるための材料として、啓蒙してまいります。

調査の概要としましては、中段に記載しているとおりでございます。調査手法としましては、インターネットを活用したアンケート調査を実施します。対象者はネットモニター1万人以上の中から、案内サインの統一がおおむね完了しております令和元年8月以降に新宿駅を使ったことがある人を調査対象として選定します。

内容につきましては、新しい案内サインの満足度やターミナルマップの認知度などを調査してまいります。例えば、移動の際に案内サインを利用しているかですとか、配布しているターミナルマップの利用状況ですとか、こういったことを聞いていく予定でございます。

このアンケート結果の分析としては、効果的な分析手法を組み合わせ、調査結果を分析します。この公表については、取りまとめ次第、東京都のホームページ等で公表してまいります。(3)につきましては、以上になります。

交通プロジェクト担当(事務局)：続きまして、議事(4)サービスの向上についてです。

二つ資料がございます。資料5、整備計画(案)と資料6です。資料6につきましては、裏面にも記載がございますので、よろしくお願いいたします。

それでは、まず整備計画(案)からご説明させていただきます。資料5です。1枚おめくりいただきまして、実施内容としましては、Wi-Fiの整備でございます。新宿駅においては、Wi-Fiの整備は広く進んでいるところですが、これまでサブナードの管轄でWi-Fiの整備が行われていない状況がございました。今回、オリンピックに向けて、サブナードがWi-Fiの整備をされていくということで、その整備内容を整備計画に追加させていただきました。整備計画(案)のご説明につきましては、以上です。

続きまして、資料6、屋内測位技術を活用した案内誘導サービス実証デモの結果について、ご報告させていただきます。まず、本年度、東京都では屋内測位技術を活用した案内誘導サービスの検討を行ってまいりました。案内サインを補足するため、屋内測位技術を活用した案内誘導サービスを検討し、より円滑な移動をサポートします。これは改札の外を出た後、例えばAという改札からBという改札に移動する際に、屋内測位技術を活用して、円滑な移動をサポートしていくことを

目的としています。本年度、この検討を行うことにあたって、昨年11月20日から22日まで、案内誘導サービスの実現に向けて新宿駅において実証実験を実施しております。本日はその結果のご報告となります。

実証デモの概要は、今、申し上げましたように、令和元年の11月20日から22日の3日間、午前、午後それぞれ1回ずつ、1時間半程度行いました。

実証デモの項目として、屋内測位技術の精度比較があります。民間事業者のほうで、様々な屋内測位技術が開発されておりますので、そのうちの三つを選んで精度比較をしております。精度比較した技術は、上段の右側に記載がありますように、Aが高精度測位社会プロジェクト、BがIndoor Atlas、CはWATA社のものと3社になります。この表にありますように、地磁気やWi-Fiなど、いくつかの信号を組み合わせて自分の位置を確立するという技術になっております。

屋内測位技術の比較と併せて、階層をまたいだ駅案内ルートを表示化にも取り組みました。標準ルートと段差を回避したルートです。これは車いすのご利用の方、ベビーカーのご利用の方が使えるように、このようなルートを設定しました。今回、計22名、外国人の方、車いす利用者の方、一般の方に参加していただきました。

下段に移りまして、実証デモの結果です。まず屋内測位技術の精度比較につきましては、各社さまとも非常に優れた技術でございましたが、実証デモの参加者からはいろいろご意見がございました。商用についてはもう少し改良が必要ではないかといったご意見が出ておりました。

駅案内ルートの表示のシステムについては、参加者からのご意見として、階層に関して、例えば地下2階から地下1階、もしくは地上へという移動の際に、自動的に階層の地図が切り替わるほうが良い。また、ルート設定の際に画面上の地図をタップして設定できると良い、自分の進んでいる向きに合わせて下の地図も向きが変わると良いといったご意見をいただきました。

右側の写真は、実証デモの様子です。

今回、この実証デモの結果を取りまとめて、公開できるものにつきましてはオープンデータとして移動ルートに関するデータを公開していく予定でございます。

交通プロジェクト担当(事務局)：それでは、裏面をご覧ください。こういった元年度の取組を基に、都が来年度はどういう取組を行っていくかをご説明させていただきます。

屋内測位技術を活用した案内誘導サービスの検討ということで、東京2020大会開催時の民間事業者によるアプリサービスの提供に向けまして、本年度の取組を基に実証デモの成果をオープンデータ化しますけれども、それを活用しました屋内誘導アプリの実証実験を実施してまいります。

スケジュールは予定ですけれども、以下に示してございます。まず3月上旬に移

動ルートや施設情報をオープンデータ化してまいります。令和2年度4月から5月の約2カ月間で、関係部署の方々と事前調整を行います。6月から7月に実際に新宿駅をフィールドとしましたアプリの実証実験を実施します。7月以降、オリンピック、パラリンピックのときに実験の成果を踏まえまして、東京2020大会に合わせてアプリをサービスインします。この期間の利用実態調査も併せて実施してまいります。

9月以降、東京2020大会の終了後、結果の取りまとめを行ってまいります。事業者の皆さまがたには、この4月から5月の2カ月間になりますけれども、事前調整期間中にあらためてご説明にお伺いしますので、その際にご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

では、ここで本年度の実証実験の様子をまとめた動画を2分程度、上映させていただきますので、正面に向かって右手のスクリーンをご覧ください。

(動画上映)

交通プロジェクト担当(事務局)：ありがとうございました。(4)サービスの向上については、以上でございます。

交通プロジェクト担当(事務局)：それでは、最後の議事(5)今後のスケジュールについて、資料7を用いてご説明させていただきます。資料7、A4横のものでございます。案内サインの改善、バリアフリーの推進、サービスの向上、この三つについて今後のスケジュールということでご説明させていただきます。

まず案内サインの改善につきましては、議事の(1)でご説明させていただきましたようにオリンピックに向けて、残るサインの整備と更新を進めていきます。

バリアフリーの推進につきましても、同様にオリンピックに向けて、新設のエレベーターの整備やそれに伴う案内サインの整備、視覚障害者誘導用ブロックの整備を行っていく予定です。バリアフリーの推進の中で、新宿ターミナル協議会としましては、エレベーター・階段マップというものを既に配布しております。本年度版は、昨年10月に配布しております。オリンピック前の東西自由通路の供用開始に向けて、それを反映したエレベーター・階段マップも作成し、東西自由通路供用開始に併せて配布をしていこうと考えてございます。

サービスの向上に移ります。エレベーター・階段マップの他にも、ターミナルマップも新宿ターミナル協議会では作成し、配布しております。こちらにつきましても、エレベーター・階段マップと同様に、東西自由通路を反映したバージョンを供用開始前までに作成、配布する予定でございます。先ほどの議事の中で説明させていただきました、屋内測位技術を活用した案内誘導の検討につきましては、令和元

年度、令和2年度と引き続いて検討していきます。令和2年度に実証実験をしていく予定でございます。その際には、各事業者さま、管轄の所で実験させていただく形になるかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

オリンピックまでに向けては、以上のような取組を粛々と精力的に行っていきます。オリンピックが終わった後、アフターオリンピックにつきましては、今後、新宿駅も大規模な改良計画が策定されておりますので、これらの駅改良に伴った工事に併せて、案内サインの改善、バリアフリーの推進、サービスの向上についても、引き続き検討できればと思っております。議事次第(1)から(5)の資料説明については、以上になります。

岸井隆幸座長：ありがとうございました。いくつかご質問もあるかと思っておりますので、どこからも結構ですので、ご質問、ご意見をいただきたいと思っております。共通して皆さん、少し聞きたいのではないかと思うのは、最後の説明で東西自由通路の供用開始に伴って、新しいものに変えていくという話がありました。これは、いつ頃だと思っていればいいですか。これはJRさんかと思っております。いつ頃になりますか。

東日本旅客鉄道株式会社東京支社総務部企画部長：供用開始の時期はまだ決まっていますが、オリンピックの前までで、工程的に厳しいので直前になるかと思っております。

岸井隆幸座長：直前になることを想定したほうがいいということですか。それに伴って、今回のマップ等はどのように変更になりますか。

交通プロジェクト担当(事務局)：東西自由通路の位置は把握しておりますので、それを反映したものを先に地図に起こして、準備を進めていく予定です。配布が供用開始のタイミングに合うように、事前に各社さまの必要部数については本年度中に確認させていただこうと思っております。以上です。

岸井隆幸座長：今のマップとおっしゃっているのは、紙のターミナルマップですか。板に掲示されている全体のマップはどうなりますか。

交通プロジェクト担当(事務局)：壁や柱に掲示しているマップにつきましても、供用開始のタイミングに併せて更新できるように、データの準備をしております。こちらについても、各社さまにデータをお渡しして、掲示していただく形になります。

岸井隆幸座長：オリンピック直前は大変忙しくなる可能性があるため、スケジュール調整はぜひ早めにやっていただきたいと思います。一番のポイントはJRさんの供用が

いつかということになります。それと併せて各社も同じように行っていただかないと、混乱を招くことになりかねません。スケジュール調整は内々でもよいので、なるべく早めに協議していただくことが必要だと思います。

交通プロジェクト担当(事務局)：案内サインも含めて、先生のご指摘にありましたように調整を進めていきたいと思っておりますので、各社さま、ご協力をよろしくお願いいたします。

岸井隆幸座長：それでは、どこからでも結構ですので、ご質問、ご意見をいただきたいと思っております。先生、まず何かありますか。

赤瀬専門アドバイザー：赤瀬でございます。2点ほど、質問がございます。まず、資料3につきまして、エレベーター新設に伴う案内サイン計画で、概要は理解しました。本日の資料では、5ページのエレベーター位置案内図をご覧くださいとよろしいかと思いますが、地下から地上に上がって、1階レベルで商業施設内エレベーターからもう一回、JRに抜ける自由通路を横切り、ルミネ1の商業施設に入って、外に出ることになります。つまり、2回乗り継ぎが必要になります。この案内方法のご説明が、今日はなかったようです。対応予定をお聞かせいただけるとありがたいと思っております。それが1点目です。

2点目は、資料4の効果検証の話です。新しい案内サインの満足度を聞くということで、大変ありがたいと思っております。利用しているかと質問すると書かれておりますが、それに加え、整備前と整備後で利用者の判断がどのように変わったか、この辺りが知りたい内容です。それをお願いできるのかどうか、事務局にお伺いしたいと思います。私の質問は、この2点です。

岸井隆幸座長：では、回答をお願いします。

交通プロジェクト担当(事務局)：ありがとうございます。まず、1点目です。資料3のエレベーター新設に伴う案内誘導のご質問について、お答えいたします。赤瀬先生からご質問のありましたルミネ1のエレベーターを使って1階部分まで上がって、JR東日本のコンコースを横切る形でルミネ1の別棟に入って、そこから甲州街道沿いに抜けるという案内をしております。JR東日本のコンコースについて、向かい側のルミネ1に入れることを示す方法を現在、検討しております。その方法としましては、コンコースの床面に案内サインを掲示する床面サインという形で対応しようと考えております。一つ目については、以上です。

交通プロジェクト担当(事務局): 2点目の効果検証の点です。整備前後の写真を使って、アンケートに回答していただくなどして、整備前後に利用者がどのように感じるかということも併せて調査していく予定ですので、よろしく願いいたします。以上でございます。

赤瀬専門アドバイザー: 分かりました。ありがとうございます。

岸井隆幸座長: 2点目の案内サインの整備効果検証は、いつ行うものですか。

交通プロジェクト担当(事務局): 3月中を目途に作業をしまひります。結果の取りまとめは4月に入ってしまうかもしれませんが、その後、公表していく予定です。

岸井隆幸座長: ご質問の内容などは、あらかじめ各関係者に見てもらふことはできますか。

交通プロジェクト担当(事務局): スケジュール的な点から、既にアンケートの準備を進めています。後送りになってしまいますけれども、このような質問をしたということは各事業者さまにご連絡したいと思っております。よろしく願いいたします。

岸井隆幸座長: 既にアンケートは進めているようですので、間に合わないかもしれませんが、どんなことを聞いているか確認をいただくことと、取りまとめについては公表前には皆さんに結果をお知らせすることができますか。

交通プロジェクト担当(事務局): もちろん、いたします。

岸井隆幸座長: それはどういう形になりますか。

交通プロジェクト担当(事務局): 取りまとめた段階で、各事業者さまに結果をメール等でお送りさせていただこうかと思っております。

岸井隆幸座長: いったん取りまとめた上で、例えば分析でこういうものをさらに加えるなどといったことは可能ですか。基礎集計を見て、こういう集計をしたほうがいいのかといった注文をすることは可能ですか。

交通プロジェクト担当(事務局): まず大きくくりでまとめて、ご報告させていただきます。細かい作業については、いろいろご意見をいただいた上での分析等につきましては、

次年度に入ってしまうので、またそこであらためてご相談させていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

岸井隆幸座長：3月中に、インターネットですから簡単にできるでしょう。アンケートの第1基礎集計まではそんなに難しくありません。そこまでは各社にまずお知らせして、さらにクロス分析できないかなどといったご注文があれば、ぜひ来年度以降、それを受けて対応していただくということにしたいと思います。公表資料についても、もし公表されるのであれば、事前に関係者には見てもらったほうがいいと思います。

交通プロジェクト担当（事務局）：承知いたしました。

岸井隆幸座長：では、年度末でお忙しいでしょうが、アンケートの内容と結果をお届けいたしますのでご覧いただき、さらにいいものにしていくということでご協力をいただきたいということです。

他にはいかがでしょうか。最後に私が分かっていないのですが、アプリを作りますというものがありました。資料6でしょう。屋内測位技術というものです。前に国土交通省さんのいろいろな実験がありました。それとの関係はどうなっていますか。

交通プロジェクト担当（事務局）：国土交通省の高精度測位社会プロジェクトと東京都の取組の関係性につきましては、連携、協力をしていくという形です。ただ、別の取組という形で、高精度測位社会プロジェクトの取組ではなく、東京都としての取組ということでご理解いただければと思っております。

岸井隆幸座長：あちらもアプリを作るんですか。

交通プロジェクト担当（事務局）：高精度測位社会プロジェクトのほうも、アプリを使った実証実験をするということを聞いております。ただ、都は新宿駅をターゲットとしておりますが、国土交通省のほうは新宿駅以外で検討されていると聞いております。

岸井隆幸座長：今、結果としてA、B、Cの測位技術があるという話がありましたが、簡単にその違いをご紹介いただきたいです。結局、どれを使おうとしているのか決まったのでしょうか。

交通プロジェクト担当 (事務局)：どれを使うかは、まだ決まっておりません。これ以外にもいろいろな技術がございますので、来年度、実証実験に参加してくるアプリ開発事業者の判断に委ねているところがございます。本年度、実験に使った屋内測位技術の比較というのは、資料 6 の上段の右の所、比較する屋内測位技術の表をご覧くださいと思います。基本的には、どれも地磁気や Wi-Fi などを使っています。その組み合わせが、多少異なっています。例えば A の測位技術は、地磁気、地球の磁場と Wi-Fi の電気信号です。PDR というのは、スマートフォンに入っている加速度センサーでございます。B につきましては、地磁気、Wi-Fi に加えて、ブルートゥースの信号も拾っています。C の測位技術につきましては、地磁気、Wi-Fi、ブルートゥースに加えて、気圧も使っています。階層移動、例えば地下 1 階から地上への移動に気圧を使うことで、自分の位置を示すものがございます。各社、この A、B、C 以外にも、いろいろな技術があるようですので、来年度も勉強しながら取り組んでいきたいと思っております。

岸井隆幸座長：アプリをお作りになるのは民間企業で、ここにいらっしゃる方たちの負担は特にないという理解でよろしいですか。

交通プロジェクト担当 (事務局)：そのとおりでございます。

岸井隆幸座長：民間事業者がどちらを使うかは、現在のところ、自由ということですか。

交通プロジェクト担当 (事務局)：はい。

岸井隆幸座長：自分の位置を確定するためにはいくつか精度があって、オープンデータでお届けするのは新宿駅の 3 次元データということですか。

交通プロジェクト担当 (事務局)：オープンデータにつきましては、これから公表していきますけれども、移動ルートの緯度経度情報になります。われわれが公表するデータとアプリ開発事業者が調達するそれぞれの屋内測位技術を組み合わせて、アプリを開発し、実験に参加していただければと思っております。

岸井隆幸座長：使う方は無料ですか。

交通プロジェクト担当 (事務局)：はい。実験期間中は無料でダウンロードできるようにします。その後も一般のアプリと同じように無料でダウンロードできるような仕組みを考えていきたいと思っております。

岸井隆幸座長：これもまた、新宿にとっては新しいデバイスという話になろうかと思えます。他に皆さんから、これまでの取組あるいは今後のスケジュールに関して、ご質問があればお受けしたいと思えますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

先ほどの測位技術の話のエリアについてですが、各事業者がお持ちのビルも対象になりますか。

交通プロジェクト担当(事務局)：今、想定しているのは新宿ターミナル協議会の範囲になっております。例えばデパートの中などは、現在は考えておりません。改札外の通路部分が対象となります。

岸井隆幸座長：先ほどのエレベーターのように、どうしても民間のビルの中を通らなければいけないものについては、仕方がないということですか。

交通プロジェクト担当(事務局)：当該のエレベーターが整備中でございますので、今回のオープンデータの中に、その部分の移動ルートは含まれておりません。

岸井隆幸座長：あとは特に民間のビルを通らなければならない部分はありませんか。

交通プロジェクト担当(事務局)：はい。今回、公表するオープンデータの中には、含まれておりません。

岸井隆幸座長：そういう状況ということですか。また、アプリ開発が進んだときには、ぜひご利用いただけるようにPRもしていただきたいと思えますので、ご協力をお願いしたいと思います。

なるべく早く終わろうと思えますが、以上でよろしいですか。本年度の取組の報告ですので、もし何か分かりにくければ、直接、事務局にお願いします。きょうは何か決めなければということよりも、状況を伺うということでした。先ほど話があったように、アンケートについても一度、皆さまのほうにお返りするという機会をつくりたいと思えます。見ていただいて、直接、事務局と意見交換をしていただきたいと思えます。

では、ここで事務局にお返しをしたいと思えます。連絡事項があれば、お願いします。

都市整備局都市基盤部交通政策担当課長(事務局)：どうもありがとうございました。会議終了後、配布資料と議事録につきましては、関係者にご確認をいただいた上で東京都のホームページで公開していきたいと考えてございます。どうぞよろしくお願

いたします。

最後に交通政策担当部長から、お願いします。

都市整備局都市基盤部交通政策担当部長：交通政策担当部長の森でございます。今回の取組は、平成27年から行ってきた取組で、サインの整備、バリアフリーの推進、サービスの向上ということで、各鉄道事業者の皆さま、施設管理者の皆さま、いろいろとご協力いただき、ありがとうございます。おかげさまで、オリンピック、パラリンピックに向けておおむね、整備が完了したという確認もできました。整備が若干、残っておりますが、オリンピック、パラリンピックに向けて、よろしく願いいたします。本当にありがとうございました。

岸井隆幸座長：この会はこれで一応、終わりでもいいですか。では、最後、事務局からお願いします。

都市整備局都市基盤部交通政策担当課長（事務局）：それでは、これをもちまして第10回のターミナル協議会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

岸井隆幸座長：この会自身は来年度も開催しますか。

都市整備局都市基盤部交通政策担当課長（事務局）：はい。

岸井隆幸座長：ほぼ終わっているという話になっていますが、まだ開催するということですか。

都市整備局都市基盤部交通政策担当課長（事務局）：はい。先ほどの今後のスケジュールについての補足です。申し訳ございません。2020年度以降、先ほども少し説明させていただきましたが、新宿駅の再編としましてグランドターミナルの構想が本格化していきます。現在の歩行者動線も大きく変わるものと思われまます。新しい動線計画に併せて、この協議会の存続なども含め、検討していきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

赤瀬専門アドバイザー：今のお話には、先ほどのアンケート結果が非常に重要な物差しになると思いますので、そういうことも念頭に置いたアンケートの方法が実施されるといいと思いました。

岸井隆幸座長：新宿の工事が本格的に動き出すと、渋谷のように仮設の通路があちこちにできたり、取りあえずバス乗り場を移したりと、暫定的な情報提供をしなければなりません。その点についてもお考えいただきたいと思います。長くかかる可能性もあるので、とても手間がかかると思います。全面的な改定ではなく、部分的に行うものですが、例えば西口一部、北のほうから部分的に仮設通路、仮設バスターミナルができるという可能性も考えられます。こういったことについても、ぜひご協力をよろしくお願ひしたいと思ひます。以上でございます。ありがとうございました。

都市整備局都市基盤部交通政策担当課長（事務局）：どうもありがとうございました。

以上

新宿ターミナル協議会（第10回）

出席者名簿

	役職名	出欠
座長	岸井隆幸 日本大学理工学部土木工学科特任教授	出席
専門アドバイザー	赤瀬達三 株式会社黎デザイン総合計画研究所代表取締役	出席
委員	国土交通省関東地方整備局東京国道事務所長	代理
委員	国土交通省関東運輸局交通政策部長	代理
委員	東京都都市整備局都市基盤部長	欠席
委員	東京都都市整備局交通政策担当部長	出席
委員	東京都建設局道路保全担当部長	代理
委員	東京都交通局企画担当部長	出席
委員	新宿区都市計画部新宿駅周辺整備担当部長	欠席
委員	新宿区みどり土木部長	欠席
委員	東日本旅客鉄道株式会社東京支社総務部企画部長	出席
委員	東京地下鉄株式会社鉄道本部鉄道統括部長	出席
委員	西武鉄道株式会社鉄道本部計画管理部長	欠席
委員	京王電鉄株式会社鉄道事業本部鉄道営業部長	代理
委員	小田急電鉄株式会社交通サービス事業本部交通企画部長	出席
委員	株式会社ルミネ開発企画部長	出席
委員	新宿サブナード株式会社総務部開発推進担当部長	出席
委員	京王地下駐車場株式会社事業部部長（兼）施設課長	出席
委員	一般社団法人東京バス協会理事長	欠席
委員	一般社団法人東京ハイヤー・タクシー協会専務理事	欠席
委員	一般社団法人東京個人タクシー協会副会長	代理
委員	公益財団法人東京タクシーセンター指導部長	欠席
オブザーバー	国土交通省鉄道局都市鉄道政策課駅機能高度化推進官	欠席
オブザーバー	国土交通省都市局街路交通施設課街路事業調整官	欠席